

連載



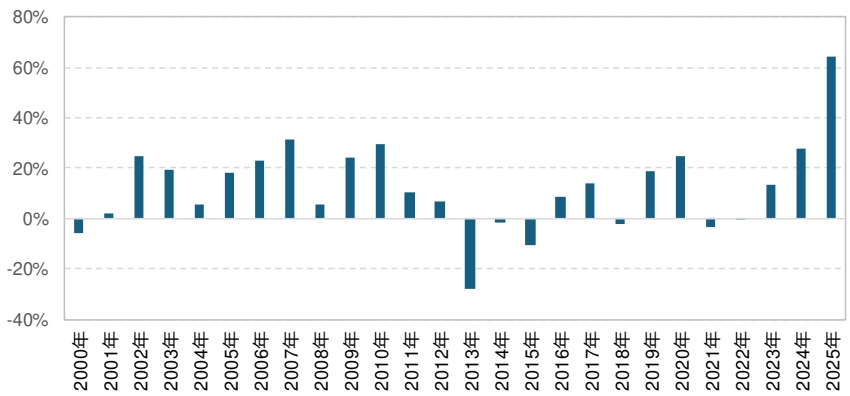
2025年の金融市場は、年初から4月上旬にかけて米トランプ政権の関税政策をめぐる懸念などから株式相場が大きく下落する場面もありましたが、その後は年末に向けて買い戻されるなど、総じてリスク資産が堅調に推移した1年となりました。そんな中、好調だった株式相場を大きく上回るパフォーマンスを見せたのが、金（ゴールド）です。金先物価格（CMX）の25年の年間騰落率は64.4%となっており、過去の年間騰落率と比較しても突出した大きさとなっています（図表1参照）。こうした動きを受けて、国内投資信託市場でも金価格に連動するファンドの新規設定が増えるなど、金投資への注目が高まっています。

投信評価機関モーニングスターのデータによれば、金関連ファンド（単一のコモディティを投資対象とし、ファンド名に「金」または「ゴールド」が入っているものを抽出）は34本あり、その残高は25年末時点で2.7兆円となっています。24年末時点の残高は8,300億円程度だったので1年で3倍強に増加した計算となります。資金フローを見ると、24年に入って金関連ファンドへの資金流入が目立ち始め、25年にその流入が急加速していること確認できます（図表2参照）。25年は10月に単月で2,000億円に迫った後、年末にかけても月間1,000億円ペースの流入が続き、年間で1.1兆円の流入額となりました。

また、金関連ファンド以外にも金への投資配分を高位に保つアセットアロケーション型（バランス型）ファンドへの資金流

入、新規設定の動きも続いています。もっとも、こうしたアセットアロケーション型は以前より存在しており、ここ数年で残高が急拡大したロボアドバイザー（ロボアド）の投資一任口座やロボアドの戦略を活用したファンドなどでも金への投資を組み入れることでパフォーマンスが堅調となり、人気が高まっているケースもあります。こうしたアセットアロケーション型の金融商品では、金保有の目的についてリスクオフ局面に備える、株式下落時のパフォーマンスを安定させる、といったことが明記されているケースも多いですが、足元では金のパフォーマンスが非常に好調なため、金の値上がり益を期待した資金も多く集まっているように感じられます。短期的な値上りを追求した金投資も投資目的の1つとして否定するものではありませんが、金関連ファンドや金を組み入れたファンドへの投資を行う際には、その保有目的を改めて確認しておくことが重要だと思われます。（執筆：BNPパリバ・アセットマネジメント 藤原延介）

図表1 CMX金先物の年間騰落率



図表2 金関連ファンドの残高と資金流入（2021年1月～2025年12月）

